

「たくましく生きる」

校長 石田 雄介

先日、今年度最初の避難訓練を行いました。今回は 57 年前に新潟地震が発生した同じ日に実施し、一人一人が自分の命を守り、安全に避難できることをねらいました。

訓練では、初めに緊急地震速報の放送を聞き、自分の机の下に入って頭や体を守ります。子どもたちに聞いてみると、6年生は体も大きくなっているのです、たいへんだったようです。次に、担任の指示でグラウンドに避難します。「おはしも＝おさない・はしらない・しゃべらない・もどらない」を合言葉に全校の子どもたちが整然と行動し、落ち着いて避難できました。全員の避難完了報告まで、6分10秒でした。

私は、避難後の振り返りで、子どもたちに新潟地震について話をしました：

1. 地震の発生と大きさ

- ・1964年（昭和39年）6月16日（57年前の今日）13時1分41秒発生。
- ・栗島の南方沖約40kmを震源とし、地震の規模はM7.5。震度は6。

2. 被害

- ・死者：26名
- ・家が全部こわれた数：1,960棟
- ・家が半分以上こわれた数：6,640棟
- ・家に水が入った数：15,298棟
- ・被害は新潟県・山形県・秋田県など日本海側を中心に9つの県に及びました。
- ・143基の石油タンクが火事になり、その火災は12日間続いたそうです。

3. 津波

- ・新潟市では高さ4mに達し、佐渡島や栗島でも被害が出ました。
- ・津波による浸水被害は、信濃川流域を中心に広範囲に亘り、場所によっては道路の水が引くまで1か月もかかったそうです。

子どもたちは皆、体を私の方に向け、遠くからでも目を合わせて真剣に話を聴いてくれました。万一の際には、「まず、命を守る行動をとること」「次に、おはしもで避難すること」の2つを心に刻めたようです。

さて、今回の訓練では、授業中の地震想定でしたので、そばに担任がいて的確な指示を出しました。しかし、そばに担任や大人がいない時や放送ができない時もあります。そんな時でも、子どもたちには“自分で判断し行動する”ことができるよう育てていかねばなりません。学校では「**自律し行動する力**」の育成にも努めているところです。

本校の**教育目標**の後半部は、「**たくましく生きる子ども**」です。

では、令和の時代に“**たくましく生きる**”には、どのような力が必要でしょうか。

それは、「目の前の問題に正対し、解決に向けて自分で行動を起こしていく力」であると考えます。指示がなくとも、自分で必要な判断を正しく行い、進んで行動していく力。南小っ子にその力を付けるべく、私たちは日々子どもたちと向き合って参ります。